



SDGs レポート 2022

できるところから、はじめよう

環境ステートメント

地球温暖化による気候変動は、人間の生活や自然の生態系に様々な影響を与えており、例えば、気温の上昇、海面水位の上昇、農作物への影響などが観測され始めています。その原因は、二酸化炭素（Co2）濃度の上昇が起因しており、二酸化炭素の削減を目指す低炭素の社会を実現していく必要があります。

株式会社大倉は、「社員ひとりひとりと環境に配慮する責任や想いを共感できる活動」、「必死に頑張るのではなく、無理のない柔軟な環境負荷削減を行う活動」を目指して行きます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



エコドライブ活動



- ゆっくり加速、ゆっくりブレーキ、ゆとりの車間距離、決して急がず、乱暴な運転をしない。
ひとつひとつの積み重ねが、環境負荷の削減と交通事故の減少につながります。

I. 営業車

項 目			上 期	下 期	年 計
2022年	給油量	ℓ	12,477.0	12,070.0	24,547.0
	走行距離	Km	225,172.0	226,454.0	451,626.0
	燃 費	Km/ℓ	18.0	18.8	18.4
2021年	給油量	ℓ	12,989.0	11,313.0	24,302.0
	走行距離	Km	244,617.0	212,602.0	457,219.0
	燃 費	Km/ℓ	18.8	18.8	18.8
【 評 価 】			×	△	×

II. ダンプトラック、連絡車など

項 目			上 期	下 期	年 計
2022年	給油量	ℓ	66,961.0	66,458.0	133,419.0
	走行距離	Km	165,221.0	168,851.0	334,072.0
	燃 費	Km/ℓ	2.5	2.5	2.5
2021年	給油量	ℓ	50,877.0	62,316.0	113,193.0
	走行距離	Km	133,304.0	162,062.0	295,366.0
	燃 費	Km/ℓ	2.6	2.6	2.6
【 評 価 】			×	×	×

- 営業車は、26台中20台がハイブリッド車両へ切替えているが燃費の更なる向上については難しい状況であり、前期比で燃費はなかなか伸びていない。
ダンプトラックは、営業車に比べ燃費効率の悪い車両であり、前期比で燃費が若干低下した結果となった。
営業車もダンプも経年劣化が原因と思われる。来期に営業車を数台入れ替える予定があるため、営業車は燃費改善が期待できる。

アイドリング ストップ活動



- 仕事にメリハリをつけて、エンジンをかけたままにしないで、止めるときは止める。 unnecessary idling is stopped, leading to fuel savings and reduction of environmental burden.

1. 重機

項 目		金沢 (40%)	瑞穂 (40%)	大井 (50%)	センター (50%)	
2022年	総時間	ℓ	4,633.0	5,003.0	2,250.0	1,754.0
	アイドリング	h	1,646.0	2,168.0	810.0	711.0
	アイドリングストップ	%	36%	43%	36%	41%
	ℓ 当り扱量	t / ℓ	10.65	7.52	9.35	27.53
2021年	総時間	ℓ	5,080.0	5,494.0	2,368.0	1,888.0
	アイドリング	h	1,738.0	2,316.0	807.0	792.0
	アイドリングストップ	%	34%	42%	34%	42%
	ℓ 当り扱量	t / ℓ	9.27	8.25	7.41	25.23
【 評 価 】			目標○ 前期比×	目標×	目標○ 前期比×	目標○ 前期比○
			t / ℓ ○	t / ℓ ×	t / ℓ ○	t / ℓ ○

項 目		奈良輪 (40%)	田倉 (40%)			
2022年	総時間	ℓ	6,710.0	5,033.0		
	アイドリング	h	2,935.0	1,808.0		
	アイドリングストップ	%	44%	36%		
	ℓ 当り扱量	t / ℓ	11.00	9.35		
2021年	総時間	ℓ	5,894.0	4,608.0		
	アイドリング	h	2,354.0	1,501.0		
	アイドリングストップ	%	40%	33%		
	ℓ 当り扱量	t / ℓ	12.01	7.80		
【 評 価 】			目標×	目標○		
			前期比×	前期比×		
			t / ℓ ×	t / ℓ ○		

- 瑞穂と奈良輪のアイドリング時間の増加と ℓ 当り扱量の低下が目立つので、今後はこの2拠点の対策を検討していく。

節約活動



- 日常使っている「電気」「水道」「ガス」などを決して無理をするのではなく、適正な使用のもとで使えば、環境負荷の削減につながります。

I. 電気

項 目		上 期	下 期	年 計	
2022年	使用量	Kwh	80,439	75,084	155,523
	金 額	円	3,093,751	2,965,956	6,059,707
2021年	使用量	Kwh	78,747	81,992	160,739
	金 額	円	2,015,433	2,298,239	4,313,672
【 評 価 】		×	○	○	

II. 水道

項 目		上 期	下 期	年 計	
2022年	使用量	m3	513	391	904
	金 額	円	103,494	83,591	187,085
2021年	使用量	m3	495	482	977
	金 額	円	100,362	98,347	198,709
【 評 価 】		×	○	○	

III. ガス

項 目		上 期	下 期	年 計	
2022年	使用量	nm3	103	546	649
	金 額	円	37,858	122,542	160,400
2021年	使用量	nm3	138	700	838
	金 額	円	35,571	113,331	148,902
【 評 価 】		○	○	○	

- 電気・ガスについては、使用量は削減となったが料金値上げにより金額は増加となった。水道は使用料、金額ともに削減となった。

節約活動



IV. 軽油

項 目		上 期	下 期	年 計	
2022年	使用量	Kwh	1,039	1,015	2,054
	金 額	円	138,997	137,955	276,952
2021年	使用量	Kwh	1,043	935	1,978
	金 額	円	134,014	129,036	263,050
【 評 価 】		○	×	×	

- 軽油は事務所の発電用で使用。累計で増加となった。

啓蒙活動



- ひとりひとりが環境活動の大切さを意識する為の広報活動を行えば、小さな変化でも環境負荷の削減につながります。

No.	項目	実施内容	活動実績
1	クールビズ	適正温度を推奨	○
2	ウォームビズ	適正温度の推奨	○
3	電気の消灯	昼休み、必要のない場所での消灯	○
4	ゴミの分別	適正な分別と処分	○
5	コピー用紙再利用	裏紙利用	○

- 継続の取組みで、今期も行った。

その他活動



■ 企業活動で環境等に配慮した活動内容を把握しよう。

- 建設発生土の把握
砂採取場跡地に建設発生土を埋め戻すことで、持続可能な社会に貢献しています。
田倉最終処分場受入数量
54期実績 434,061m³
- 産業廃棄物の把握
廃棄物処理法を順守し、自社排出、収集運搬を適正に管理しています。
収集運搬 6,396.45 t
排 出 2.13 t
- 環境関連法令遵守の把握
「環境関連法令取りまとめ表兼順守点検表」で法令・条例の順守を確認し、適正管理に努めています。
廃棄物適正処理
 - ・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
 - ・ （東京都）廃棄物の処理及び再利用に関する条例
 - ・ （神奈川県）廃棄物の不適正処理の防止等に関する条例
 - ・ （千葉県）廃棄物の処理の適正化等に関する条例土壌汚染対策
 - ・ 土壌汚染対策法
 - ・ 千葉県残土条例 ・ 富津市残土条例 ・ 神奈川県残土条例資源循環（リサイクル）
 - ・ 家電リサイクル法 ・ 自動車リサイクル法 ・ 建設リサイクル法その他
 - ・ フロン排出抑制法 ・ 騒音規制法 ・ 振動規制法 ・ 消防法
 - ・ 自動車Nox・PM法 ・ オフロード法 ・ 浄化槽法
- 社外活動
特になし

総括と今後について

●今年度の活動について

- ・エコドライブ活動（営業車・自社ダンプの燃費効率管理）

営業車、ダンプともに経年劣化の影響で全体で燃費が若干悪化した結果となりました。

- ・アイドリングストップ活動（重機作業の効率化と管理）

目標達成が出来ず、ℓ当り扱量も減少してる拠点があるので、拠点間で情報や問題点を共有し拠点ごとの対策等を検討します。

- ・節約活動（電気・ガス・水道の使用状況の把握）

使用量はすべて削減となったが、料金の高騰により電気・ガスの料金は増加となった。

- ・啓蒙活動（社内外への広報活動）

今回も前期同様、半期ごとの社内会議での実績報告のみとなりました。

●今後について

引き続き、当社で環境負荷が多い重機の管理に注力していきますが、結果が出ない拠点に関して状況把握・評価が難しい部分があるので、今後はもっと現場主導で行っていく方向に切り替えを行います。既存の会議などを活用し環境面での打合せを行う機会を増やし、全員参加型の活動を目指します。

啓蒙活動は今後、環境レポートを自社HPに掲載するなど地道に広報活動を行っていきます。

環境推進委員会

株式会社 大 倉

〒235-0023 神奈川県横浜市磯子区 3 丁目 7 番 4 号

TEL (045) 751-1441 <http://www.ohkura-web.co.jp>

報告対象期間 2022年7月～2023年6月